



十和田市立中央病院

# 病院ニュース さわらび

平成 27 年 12 月 7 日号

## 「平成 27 年度十和田市立中央病院 CPC」に参加して

臨床検査科 技師長 上野 文宏

平成 27 年 10 月 30 日（金）午後 6 時より、病理診断を行う病理医、東北大学大学院医学系研究科 病理診断学分野 教授 笹野 公伸 先生（写真右）を囲んで、臨床 - 病理検討会 CPC（Clinico- Pathological Conference）が本館 3 階会議室において開催された。

息の詰まるような静寂間の中、次々と各診療部署の医員が入室静座。司会は杉田先生、流れるような進行で一気に、二年次研修医 横野 良典 先生の発表が始まった（写真右中）。題名は、「IPMN に急性膵炎を合併した 100 歳女性の一例」。膵管内乳頭状粘液腫瘍（IPMN：Intraductal papillary mucinous neoplasm）により産生された粘液による主膵管の閉塞から急性膵炎を発症し、循環不全で亡くなるまでの病態と治療についての報告がなされた。入院後の経時検査で、閉塞した膵臓の主膵管径が拡大する様子や膵体部が浮腫状となる様子が印象深かった。

笹野教授は、この症例の病理と解剖所見についてバーチャルスライドを巧みに操り解説された（写真右下）。IPMN が膵臓の主膵管及び径が大きな管に発生する乳頭状に増殖し粘液を産生する腫瘍の総称であること、稀であること、組織型が 4 種類あること、免疫組織化学的検討が重要なことなど解りやすく伝えて戴いた。スライドは二画面、取り出された膵臓の多房性嚢胞写真や、顕著な膵管の拡張と粘液漏出を証明することから始まり、病理組織像で Vater 乳頭からの粘液漏出、「リアス式」様形態像の解説、膵臓疾患に関連深い A1C や総コレステロールと患者年齢との関係にも触れられていた。

最後に、今回の CPC も、臨床診断から病理診断、さらに解剖による診断と幅広い視野で考える充実した時間を出席者全員で共有できた有意義な検討会でした。



## 「がん集学的治療に強い病院」医療雑誌で紹介されました。

放射線科 小川 佐智男

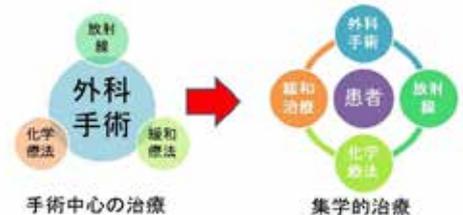
当院は、患者向け医療雑誌「病院の実力～夫婦で考える病気」(平成27年11月読売新聞本社発行)に「がん集学治療に強い病院」として特集掲載されました。多くの職員が地道に行ってきた、草の根の努力が認められ、第三者機関より一定の評価を頂いたこととなります。特集記事内では、他の診療科と連携し、がんと闘う実力病院と銘打って、外科の丹野院長と放射線科の目時科長が紹介されています。

これまで、日本のがん治療は「外科手術」が主流で、ほかの治療は補助的治療として位置付けられてきました。十和田市では先駆けて「集学的治療」に取り組んでまいりました。この治療は一つの方法にこだわることなく、様々な治療法(手術・薬剤・放射線・緩和)を組み合わせ、相乗効果を引き出すことが特徴。すなわち、単に治すだけでなく「健康寿命」を延ばすことができます。



外科  
丹野院長

放射線科  
目時科長



高精度放射線治療装置 「トモセラピー」

十和田市の主産業は農業・畜産業。サラリーマンのような定年制は当てはまりません。健康な間は働きたいという希望を持つ市民がほとんどです。「健康寿命」を伸ばすことは、市にうるおいを与え、産業が活性化することを意味します。市民が遠くまで足を運ぶことなく、市内で「がん治療」が完結できること。それが十和田市立中央病院の職員一同の願いです。

## 『院内自衛消防訓練-2回目』が行われました。

業務課施設管理係 竹内 雅紀

去る平成27年11月6日、当院にて今年度2回目の自衛消防訓練を実施しました。今回は夜間を想定しての訓練となり、日中想定との1回目よりも行程が複雑になっています。また、自衛消防隊員役として各部局からも人員を派遣していただきました。日頃と異なる視点から職場を見る機会になれたならば幸いです。今後も皆さんからご協力いただき、緊張感のある訓練を企画していきたいのでよろしくお願いします。



松野事業管理者の講評



入念な打ち合わせ



緊張してます



十和田消防署からの講評

# 認定看護師・セラピストによる相談窓口（変更）

当院では、各分野の認定看護師やセラピストが地域の医療・介護・福祉施設からの看護・ケアに関する相談をお受けしております。相談内容に応じ、各認定看護師・セラピストが直接対応いたしますので、どうぞ遠慮なくご連絡ください。

担当者が不在の時は、代理の者が対応させていただくか、後日担当者からご連絡を差し上げます。

各分野の相談窓口	担当者		内線番号
褥瘡(床ずれ)に関すること	皮膚・排泄ケア認定看護師	木村 英子	7558 (PHS)
ストーマ(人工肛門・人工膀胱)に関すること	皮膚・排泄ケア認定看護師	笹森 祥子	7581 (PHS)
緩和ケア(主にがん)に関すること	緩和ケア認定看護師	太田 緑	7560 (PHS)
		八重樫 学	7635 (PHS)
リンパ浮腫(むくみ)に関すること	リンパ浮腫ケアセラピスト	新谷 亨	2280 (リハビリテーション科)
		石川 美帆子	2115 (1階外来)
化学療法(抗がん剤治療)に関すること	がん化学療法看護認定看護師	佐々木 美紀	2229 (化学療法センター)
救急処置・ケアに関すること	救急看護認定看護師	仁和 喜美江	7591 (PHS)
		赤坂 浩子	2680 (6階西病棟)
感染対策に関すること	感染管理認定看護師	藤井 真希	7559 (PHS)
糖尿病に関すること	日本糖尿病療養指導士	成田 圭子	7570 (PHS)
フットケア(足の腫や爪)に関すること			
口腔ケアに関すること	日本口腔ケア学会認定士	米田 優子	2480 (4階西病棟)
医療安全に関すること	医療安全管理者	鹿内 純子	7571 (PHS)
透析看護に関すること	透析看護認定看護師	水尻 信雄	2380 (3階西病棟)

## 院内『チーム医療』の紹介 (part 1)



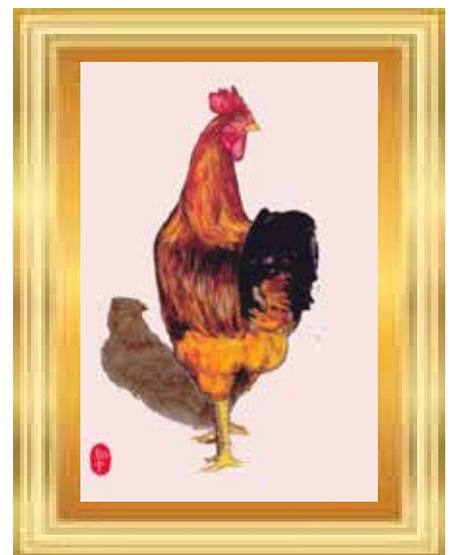
## 今月のアート

### 「NST サポートチーム」 栄養科 高屋信也

NSTとは Nutrition Support Team の頭文字をとったもので、患者の栄養状態改善を図っていくチームです。

多職種で構成されており、患者の病気や普段の活動レベルによりどの程度の栄養が必要か、食事、輸液からどれだけの栄養が補給できているかを評価しています。その結果から、輸液の増減や栄養補助食品の追加を検討し、主治医に提言しています。

今年度から、静脈経腸栄養学会認定の栄養サポートチーム専門療法士取得のための40時間の研修として、外部の方を受け入れる体制を整えています。



「にわたりの秋」

画・畑中 光昭